

公開シンポジウム

ティリッヒとパネンベルクの神学的〈学問論〉

Prof. Gunther Wenz

University of München

講演「ティリッヒとパネンベルクの神学的〈学問論〉について」

1. 精神における思惟と存在の統一——ティリッヒ『対象と方法に従う諸学の体系』について
2. 「全体なるものの意味」——パネンベルク『学問論と神学』について

司会 茂牧人（総合文化政策学部教授）

リスポンデント

西山雄二（首都大学東京准教授）

濱崎雅孝（京都大学他非常勤講師）

西谷幸介（国際マネジメント研究科教授）

講演はドイツ語で行われますが、当日は日本語の訳文が配布され、質疑応答には通訳者がつきます。どなたでもお気軽にご参加ください。

〈当日のプログラム(予定)〉

- ◆13:30 主題講演
- ◆15:00 休憩
- ◆15:15 講演に対する応答
- ◆15:45 ディスカッション
- ◆17:00 終了

2012年3月10日(土)

総研ビル 11F 第19会議室

13:30-17:00

青山学院大学総合研究所

研究プロジェクト

「キリスト教大学の学問論」主催

Gunter Wenz (Gunther Wenz)

1949年生まれ。ミュンヘン、エアランゲンで神学を学び、1973年にティリッヒの神学についての博士論文をミュンヘン大学に提出し、神学博士。1980年に同大学に教授資格論文を提出。ミュンヘン大学助手、アウクスブルク大学教授を経て、1995年からパネンベルクの後任としてミュンヘン大学プロテスタント神学部組織神学講座教授。また基礎神学及びエキュメニカル研究所所長を兼任。



著書は、ティリッヒを扱った *Subjekt und Sein: Die Entwicklung der Theologie Paul Tillichs* (München 1979), *Tillich im Kontext: Theologiegeschichtliche Perspektiven* (Münster 2000)、パネンベルクを扱った *Wolfhart Pannenberg's Systematische Theologie: Ein einführender Bericht* (Göttingen 2003) 等多数。

○シンポジウムへのお誘い

本年1月に法政大学出版局より刊行されましたパウル・ティリッヒ『諸学の体系』の前書きに、「大学の学問の問いそれ自体から発する内発的な…『学問論』が踏まえられてこそ…創造的な大学論も輩出しよう」として頂きました。当研究プロジェクトは大学教員の知的・教育的営為の根拠としての学問体系の探究と提示をその目的としております。上記ティリッヒ書と、近々に邦訳出版予定のヴォルフハート・パネンベルク『学問論と神学』は、その目的達成に大いに資するクラシックな名著と理解しております。

本シンポジウムの主題講演者、ミュンヘン大学神学部Gunter Wenz組織神学教授は、ドイツを代表するティリッヒ研究者でありかつパネンベルクの後任者であります。教授によれば、ティリッヒの神学的学問論を総括する定式は「精神における思惟と存在」、パネンベルクのそれは「全体的なるもの」です。参加者の皆さまにはこの二人の学問論の根本使信とその比較をめぐる教授の講演をたつぷりと味聴して頂きたいと存じます。

リスポンデントは、首都大学東京准教授 西山雄二氏、上記ティリッヒ書の邦訳者の一人である京都大学他非常勤講師 濱崎雅孝氏、そして小生です。ヴェンツ教授の紹介を聖学院大学総合研究所 深井智朗教授にお願い致しております。

本シンポジウムの主題に関心を抱かれる方はどなたでも、振るってご参加下さい。

プロジェクト代表 西谷幸介

<交通案内>



*本シンポジウムは会場の収容人数の都合のため、参加をご希望の方は下記のアドレスまたは総研にできるだけ事前予約をお願い致します。
aguchristculture@hotmail.co.jp

青山学院大学総合研究所 研究プロジェクト「キリスト教大学における学問体系論の研究」主催
<連絡先>青山学院大学総合研究所
電話：ダイヤルイン 03-3409-7472
URL：http://www.ri.aoyama.ac.jp/